

大学院開設10年記念号発行に寄せて

愛知淑徳大学大学院英文学会

会長 宮田 修

愛知淑徳大学院開設10年を迎え、その記念事業として、大学院英文学会編集委員会の手によりこの度論文集 *Language & Literature* 第8号（大学院開設10年記念号）刊行の運びとなったことは誠によろこびに耐えません。

平成3年度より愛知淑徳大学大学院が修士課程から博士課程へと課程変更になりましたが、これを機に学生の間から、英文学専攻学生の研究活動の発表の場として論文集の刊行の気運が盛り上がり、ついに英文学専攻論文集として、平成4年3月25日に *Language & Literature* 第1号が発刊されるに至りました。この発刊は、初代大学院文学研究科英文学専攻主任の太田英雄教授が論文集発刊費用を予算化されたこと、および、熱意にあふれた諸先生方のご助言とご指導により実現されたものです。

さらに、その精神を受け継がれた現英文学専攻主任の池谷敏忠教授は、論文投稿者の増加に合わせた予算の増額、常に英文学専攻学生の将来を見据えた貴重な助言などにより論文集の質量の充実に多大のご尽力をされました。そして、その後も現役院生のみならず卒業生にも当初と変わらぬ熱意を注いでいただける諸先生方のご指導のおかげで、とぎれることなく論文集の発行が続き、第8号の発刊を迎えることになりました。

平成10年度に、それまでの「英文学専攻の会」から「大学院英文学会」と名称も変更され、さらに学術刊行物の指定も受け、この論文集は名実ともに英文学専攻学生、卒業生の研究活動の発表の場としての位置づけを確固たるものに致しました。

この *Language & Literature* 第8号（大学院開設10年記念号）は、言語学、応用言語学、英文学、アイルランド文学、米文学などの諸領域から構成され、大学院英文学会の一般会員44名のうち約半数の20名もの会員に執筆されていることは特筆されるべきことです。今回のような特別の意義をもつ独自の企画を十分に理解され、「文字の力」を信じ、自己の思考の高さを「言語」で積極的に表現しようとした精神の高さに深く敬意を表するものです。

最後に、大学院開設10年記念号の出版に際し執筆、編集に尽力された方々、ご協力いただいた大学当局、貴重なご助言およびご指導をいただいた諸先生方に深く感謝申し上げますとともに、大学院英文学会の一層の発展を心より願うものであります。